



んでしまいました。草木をわけながら、どんだん山の中を歩いてみると、かすかな音が聞こえてきました。

すると大きな木の根のところに大蛇がとぐろを巻いて、いびきをかきながら眠っていたのです。留太郎はおどろいて、足がふるえ出しました。どこをどう走ったのか夢中で山をかけ下りました。家に帰っても口もきかずに寝てしまいました。家の人たちは留太郎が余り眠っているので心配しましたが、起きようとしませんでした。そして七日七晩も眠り続けたといっています。

後になって部落の人の話を聞きますと、延田の山奥に棲んでいた大蛇が、川越に出て御代田の五幸山の方へ行くのを見たということです。しかし五幸山の山火事の時、この大蛇はどうなったかと、みんなで心配したそうです。留太郎の見た大蛇は五幸山の主であったかも知れません。昔から五幸山では大蛇を殺してはならないといわれています。五幸山には、蛇をまつた祠ほくらもたくさん残っているのです。